第５回　ふくまる夢たまごセミナー

日　時　　8 月 23 日(金)18:00～20:00
場　所　　市庁舎 7 階大会議室
内　容　　講　話　「安全･安心な学校づくり」
～18 年前のあの日　後世に伝えていかなければならないこと～
講　師　:矢野克巳　氏(前池田市立緑丘小学校校長)

第 5 回ふくまる夢たまごセミナーは、「安全・安心な学校づくり」をテーマに塾生 24 名が参加して開催されました。

講師には、附属池田小学校で起こった悲しい事件の当事者である矢野克巳先生（前緑丘小学校校長・元大阪教育大学附属池田小学校副校長）をお招きし、体験談をもとにした安全教育についてご講演いただきました。

附属池田小学校で起こった事件も、今年で 18 年目を迎えました。当時、副校長先生だった矢野先生の話は、大変貴重であり塾生も真剣に耳を傾けていました。

「事件当時の教職員は、目の前に起こっていることに、各々がその場の判断で、それぞれが必至に子どもの命を救おうと懸命に救命活動を行ったが、結果は多くの痛ましい被害者を出してしまった。混乱の中で学校全体としての状況把握ができず、組織だった救命活動を行うことができなかった。」という事件の検証から、様々な安全管理の視点をお聞きすることができました。

　そして、二度とこのような理不尽な事件を学校内で起こしてはならない、体験した者の責任として、これから教師をめざす若者に伝えなければならないという矢野先生の強い思いが伝わってきました。

　講演会を終えての班別協議でも、塾生は、学校における危機管理、子ども達への安全教育などについて熱心に話し合っていました。

＜塾生の感想から＞

〇何よりも大切なのは命、そして教師は子どもの命を守る使命があるということを強く自覚させられました。日々、自身のあるべき姿や、もしもの事態をできるだけ想定すること、教職員との連携、地域や保護者との協力体制について考えること。また、この事件を風化させないことを胸に刻み、覚悟を持って教員になりたいと思いました。

○事件の時、私は市立池田小の２年生でした。今でも親せきから心配の電話がかかってきたり、自宅の近くで犯人が捕まったことを覚えています。今回お話を聞いて改めてこの事件について考え直す機会がいただけたと感じています。

○一番印象に残っているのは矢野先生の「普段からの想像力、後悔してからでは遅い」という言葉である。普段から非常事態を想定して備えるということは難しいことだと思う。しかし、その１つの“まさか”を考えるか考えないかが非常事態に子どもを守れるか守れないかを分けることに繋がると思う。

○ 改めて防犯・防災の意識を高く持たなければならないと強く感じました。また、事故や事件、災害が起きたときの避難経路や連絡手段、自分の役割等をきちんと把握することの重要性も学びました。子ども自身にも「自分ならどうするか」という考えを持たせることも大事だと思いました。